

藻岩・南沢地区 学校配置検討委員会ニュース

発行
2024年1月

藻岩・南沢地区では、藻岩南小学校の小規模化による課題の解決等のため、令和5年2月より「学校配置検討委員会」を設置し、検討を進めております。

この度、令和5年11月29日に第4回学校配置検討委員会を開催いたしました。検討状況につきまして、地域の皆様へお知らせしますので、是非とも多くのご意見をお寄せください。

検討委員会の配布資料等については札幌市教育委員会のホームページに掲載しています。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/moiwa_minamisawa.html



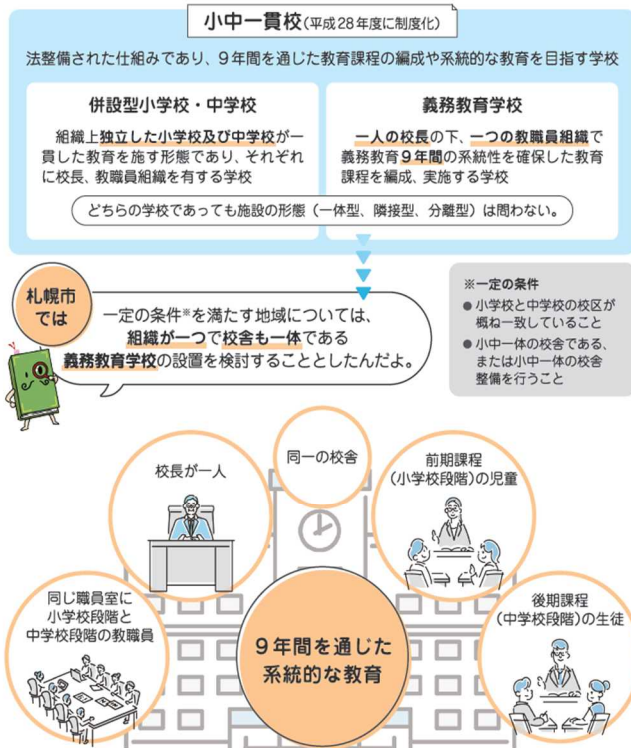
※第4回配布資料：地域から寄せられた意見（2件）、義務教育学校について など

協議事項 義務教育学校について

【協議内容】

- 「義務教育学校」に関して、委員や地域の皆さまから理解を深めたいといった声をお寄せいただいたことから、今回は札幌市や他都市の事例を踏まえながら、教育委員会より「義務教育学校」に関する説明を行い、それに対する質問や意見を出していただきました。
- なお、スクールバスや通学安全に関しましては継続協議としておりますが、教育委員会及び関係部局にて現在調整中のため、次回（第5回）以降に協議することとさせていただきます。

下記（P1～P2）の内容は、第4回配布資料として、本市HP上にも掲載しております。



札幌市が考える義務教育学校の主な利点

- 札幌市が推進する「小中一貫した教育」の先進的な取組が期待できます。

学びのつながり	9年間の見守り	教職員の連携・協働
9年間を見通した学習指導を行うことで、分かれる・できる・楽しい授業を推進します。また、5年生の段階から教科担任制を取り入れるなど、柔軟な学習環境を導入することができます。	子ども一人一人の成長を9年間じっくりと見守ることができ、小・中それぞれの指導のよさを取り入れ、子どもの個性をより生かした活動を行うなど、切れ目のないきめ細かな子どもの育ちを支援することができます。	子どもに分かりやすく指導できる小学校の先生と、教科の専門性を生かして指導できる中学校の先生の日常的な連携・協働により、先生方の授業力の向上が期待できます。

学校・家庭・地域のつながり

目指す子ども像等の実現に向けて、学校・家庭・地域で連携・協働しながら、9年間安定した関わりをもつことができます。

- 学校が目指す子ども像の実現に向けて、学年の区切りを柔軟に設けたり、日常的に幅広い異学年交流を行ったりすることができます。

他都市の事例

前期課程				後期課程					
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	
1年～4年(最初の区切り)				5年～7年(接続する区切り)					8・9年(最後の区切り)
<ul style="list-style-type: none"> ● 4年生をリーダーとした縦割り活動 ● 1～4年生で学習発表会を実施 				<ul style="list-style-type: none"> ● 5年生段階から教科担任制の一部実施 ● 委員会活動、部活動 ● 5年次からの50分授業 					<ul style="list-style-type: none"> ● 学校のリーダーとしての活動

他都市では、9年間で4年～3年～2年に区切るなどの事例があります。

子どもの「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実につながります

取組例 その1

学年の区切り（指導区分）

学校が目指す子ども像の実現に向けて、学年の区切りを柔軟に設けることができます。

☆9年間で4年－3年－2年に区切る場合（例）

前期課程（1～6年生）						後期課程（7～9年生）		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
1～4年生（最初の区切り）				5～7年（接続する区切り）			8～9年（最後の区切り）	
○4年生をリーダーとした縦割り活動 ○1～4年生で学習発表会を実施				○5年生段階から教科担任制の一部実施 ○委員会活動や部活動・5年次からの50分授業			○学校のリーダーとしての活動	

～福移学園の取組例～ 5年－4年の区切り



【立会演説会】

後期（10月）から6年生が生徒会に所属するため、生徒会役員選挙に向けた演説会を実施しました。10月からは、5年生が前期課程のリーダーとなりました。

期待されること（例）

- 9年間の円滑な学びのつながりの重視
- リーダー性の育みの一層の充実
- 【教育課程と指導区分の区切りを効果的に活用した教育活動】
- 【多様なリーダー体験】
- 発達の段階に応じた成長の促し
- 学びの広がり・深まり
- 【小学校卒業・中学校入学とは違う新たな節目を意識した教育活動】
- 【異学年合同授業、異学年合同行事、5年次からの教科担任制】



【異学年によるコラボ授業】

国語科において、1年生が7年生に、2年生が9年生に朗読劇を披露しました。

取組例 その2

前期課程と後期課程、学年の区切り（指導区分）の関わりを生かした活動

日常的に幅広い異学年交流を行ったりすることができます。

他都市の事例

- 既習の想起の際に、実際に授業を見学する機会を設定
- 同一・類似単元等における合同授業
部分的に一緒に考えたり、部分的に上級生が下級生に教えたりする場面の設定
- 学習したことの発表交流
4年生と7年生合同、5年生と8年生合同等、前期課程と後期課程の関わりを生かした交流

札幌市の事例（検討状況）

- 低ブロック（1～4年）または中ブロック（5～7年）段階において、中学校教員による専科指導を実施
- 学校行事の際にブロックごとで活動を行い、各ブロックの最高学年がリーダーとして活躍する場面を設定
- 複数学年による旅行的行事の合同実施
- 児童生徒会活動において、5年生以上を中心として企画・運営し、自治的な活動を推進。

STV どさんこワイド 179 にて、
令和5年度に開校した福移学園が紹介されました。

STV ニュース北海道 YouTube >>>



意見・質疑応答の概要

※類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

※「●」・・・委員からの意見、質問等

※「⇒」・・・委員、札幌市・教育委員会職員からの説明、回答

- 札幌市内の他地区の義務教育学校の児童生徒数を知りたい。

⇒【教育委員会】

令和5年度開校の福移学園は約100名・9学級

令和7年度開校予定の定山溪学園は約30名・6学級（開校年度の推計値）

令和9年度開校予定の（仮称）真駒内地区義務教育学校は約720名・24学級（同上）

- 「切れ目ないきめ細かな子どもの育ちを支援する・・・」という説明だが、学校規模が大きければ大きくなるほど対応が大変になると感じるが、どのように学びを保障していくのか。教員や校長先生の負担が増えるのではないのか。

⇒【教育委員会】

義務教育学校となり、小中学校が一つの組織になったからといって教員の数が減るわけでない。また、教員の数は学校規模に応じて決まるので、学校規模が大きくなれば、その分教員の数は増加する。義務教育学校の場合、校長先生は1名となるが、副校長を配置することで、校長先生をサポートする体制をとることになる。

- 地方の義務教育学校の関係者の話によると、運動会などの学校行事において、前期課程と後期課程で考え方の違いにより揉め事が発生するケースがあると聞いた。この他児童会と生徒会の違いなど、義務教育学校ならではの課題があるのではないのか。それが札幌市内の700～1,000名規模の学校となれば、更に調整が困難とならないのか。

⇒【教育委員会】

- ・他都市の義務教育学校を視察した際、真駒内地区と同等（1学年2～3学級）かそれ以上の規模の学校があったが、校長先生によると、「義務教育学校となったことで、上級生は下級生のお手本とならないといけないという意識の働きにより規範意識が高揚し、子どもの落ち着きにつながるなど、年齢差の大きい異学年交流を通して、生活全般にわたり確かな成長に繋がっている。」とのことであった。また、「義務教育学校は、メリットしかない。」との話もあった。
- ・義務教育学校の特色を生かすことで、教育の工夫がしやすくなると感じている。



【前期課程の縦割りの活動】

小学校ではよくある学年縦割りの活動ですが、福移学園では学年の区切り（指導区分）により、後期（10月）から5年生がリーダーとなっています。



【前後期合同の総合的な学習の時間】

福移学園は農園体験に力を入れています。作物の管理や収穫祭の運営等は後期課程の生徒が中心に行います。

- 藻岩南小学校について、真駒内地区における駒岡小学校（小規模特認校）のような形で、そのまま残すことはできないのか。

⇒【教育委員会】

小規模特認校と藻岩南小学校では、そもそもの位置付けが異なると考えている。

※小規模特認校・・・本市の辺縁部に位置し、自然環境に恵まれた小規模の学校で、児童・生徒数の状況、学校を取り巻く四季の自然環境や交通事情などの地理的状況を考慮し、現在市内4校を対象としている。

- 小学3年が行う地域学習の一環として、校区内を歩く授業があるが、校区が広がった場合はどうするのか。取組に伴う学習内容への影響について、学校や教員に任せっきりでは、負担に繋がるのではないか。

⇒【教育委員会】

教育委員会として、学校へのサポートはしっかり行っていきたい。

- 私たち地域住民にとっては、教育に関する詳しい内容は把握しきれない。義務教育学校については、教育委員会の説明により、「子どもたちや地域にとって良いものだ。」ということはよくわかるので、この取組を進めること自体は良いことと考える。「通学手段や通学安全はどうするのか。」といった不安や心配ごとが解消されれば、地域の理解を得られるはずである。
- 本件については、地域がより良くなるよう、今後も引き続き良い議論をしていきたい。

その他お寄せいただくことが多いご質問

Q) 入学式や卒業式はどうなりますか。

A) 一つの学校になることから、入学式が1回、卒業式が1回となります。ただし、学年段階の区切りを踏まえ、児童生徒の新たな段階に入る自覚を高めるような行事等を行うことも可能ですので、今後、学校で検討してまいります。

Q) 制服や学校行事はどうなりますか。

A) 現時点では決まっていません。義務教育学校の設置が確定した後、学校が保護者、地域と相談しながら検討していきます。

次回の検討委員会について

- ▶会議名 第5回 藻岩・南沢地区 学校配置検討委員会
- ▶開催日時 2024年(令和6年)2月27日火曜日 18時00分～19時30分
- ▶開催場所 もいわ地区センター(南区川沿8条2丁目4-15)

※検討委員のみが参加する会議のため、一般の方は入場できません。内容は後日ニュースレターやホームページでお知らせいたします。また、日程は都合により変更となる場合があります。

次回(第5回)検討委員会の議題(予定)

- ▶第4回検討委員会の振り返り
- ▶地域や保護者の皆様から寄せられた声の紹介
- ▶通学方法や通学安全に関する事など、取組案の課題整理と解決の方法
- ▶その他、当日協議を行う必要があるもの

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

藻岩・南沢地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課(学校配置マネジメント担当)
- ▶電話: 011-211-3836 FAX: 011-211-3837
- ▶E-mail: gakkokibo@city.sapporo.jp



さっぽろ市
02-S01-23-2426
R5-2-1480

SAPPORO